

# 病害虫発生予察注意報第 1 号

佐賀県

作物名：タマネギ  
病害虫名：べと病

## 1) 注意報の内容

発生地域：県内全域  
発生量：平年より多い

## 2) 注意報発令の根拠

- (1) 4 月 3 日に実施したべと病の定点調査では、マルチ被覆圃場(早生)での発生株率は 10.5% (前年 24.5%)、発生圃場率は 100% (前年 75.0%) であり、ここ 4 年の中で発生が多い(表 1、写真 1)。
- (2) 露地圃場(中生・晩生)での発病株率は 1.9% (前年 0.9%)、発生圃場率は 87.5% (前年 37.5%) であり、ここ 4 年の中で最も発生が多い(表 1、写真 2)。
- (3) 多くの圃場では未だに越冬罹病株の発生が認められている(写真 3、4)。
- (4) 現在、早生タマネギで発生が多く、病原菌密度が高まっていると考えられ、今後、中生・晩生タマネギへの伝染が予想される(図 1)。

表 1. タマネギ巡回調査におけるべと病の発生状況

調査年	各調査圃場 (a~p) におけるべと病の発生株率 (%) と品種の早晚別の発生圃場率																			
	マルチ被覆(早生)									発生圃場率 (%)	露地(中・晩生)									発生圃場率 (%)
	a	b	c	d	e	f	g	h	平均		i	j	k	l	m	n	o	p	平均	
2011年	22	2	4	4	2	6	0	4	5.5	87.5	0.5	0	0	1.0	0	0	0	0	0.2	25.0
2012年	20	2	0	4	0	0	6	0	4.0	50.0	0	0	0	0	11.3	0	0	0	1.4	12.5
2013年	4	86	2	100	2	0	2	0	24.5	75.0	5.8	1.0	0	0.3	0	0	0	0	0.9	37.5
2014年	8	4	13	2	37	18	0.3	2	10.5	100	6.5	0.3	0.3	0.3	1.5	1.0	5.3	0	1.9	87.5

注1) 2011年、2012年：4月5日、2013年：4月4日、2014年：4月3日調査

注2) 調査圃場は年ごとに異なる。調査株数は1圃場あたり50株～400株調査

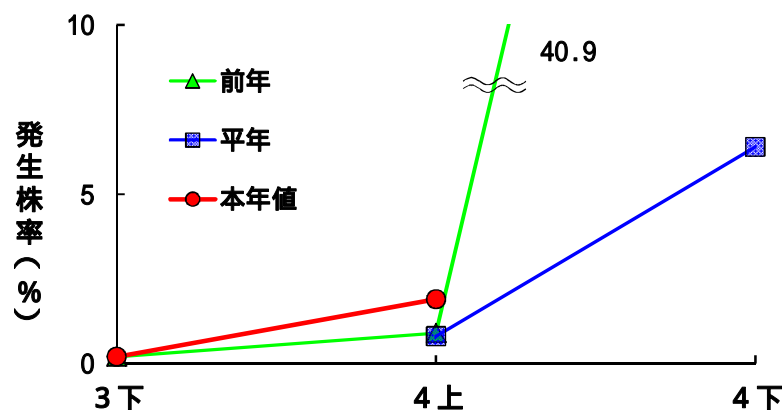


図 1. 巡回調査(露地)におけるタマネギべと病の発生推移  
注) 4月上旬の平年値は2011～2013年の平均

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早生タマネギなどで発生したべと病が、周辺の中生・晩生タマネギの感染源になる場合があるので、**地域全体で防除対策に取り組む**。
- (2) 発生状況は圃場毎に異なっているため、必ず、圃場での発生状況を調査する(写真1~2参照)。早生タマネギについては発生が多い場合には臨機防除を実施し、**中生・晩生タマネギについては、発生初期のうちに速やかに薬剤散布**を実施する。
- (3) **越年罹病株**からの伝染は収穫期まで続くので、**抜き取りを徹底する**。
- (4) 多発すると生育に影響を与えるだけでなく、貯蔵中の腐敗の原因となることから、防除対策を確実に実施する。
- (5) 薬剤防除に当たっては、タマネギの収穫時期を考慮し、**農業使用基準(収穫前日数等)を遵守**する。
- (6) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない(県防除のてびき P.266~267 項参照)
- (7) 薬剤散布を行い、病勢が一旦治まったように見えても、曇雨天が続くと新たな病斑を形成することがあるので、このような場合には追加防除を実施する。



写真 1 マルチ被覆タマネギで多発生しているべと病



写真 2 露地タマネギで葉先に発生しているべと病



写真 3 マルチ被覆タマネギで未だに発生しているべと病越年罹病株



写真 4 露地タマネギで発生しているべと病越年罹病株

注) 写真1~4は、平成26年4月3日撮影、調査定点圃場。  
矢印: べと病越年罹病株